

<IPA 情報発信第 145 号の内容>

I. 今月のトピックス

1. 「企業の CISO や CSIRT に関する実態調査 2016」報告書を公開

IPA は、企業経営者の情報セキュリティに対する関与、組織的な対策状況について把握するため、「企業の CISO や CSIRT に関する実態調査 2016」を実施し、その報告書を 5 月 10 日 (火) に公開しました。

2. 「IoT 開発におけるセキュリティ設計の手引き」を公開

IPA は、今後の IoT の普及に備えて、IoT 機器および、その使用環境で想定されるセキュリティ上の脅威に対し、事業者 (開発者) の備えが急務であると考え、「IoT 開発におけるセキュリティ設計の手引き」を作成し、5 月 12 日 (木) に公開しました。

3. 「セキュリティ・ミニキャンプ in 四国 2016」を共催

IPA は、四国では初めてとなる「セキュリティ・ミニキャンプ in 四国 2016」をセキュリティ・キャンプ実施協議会と共同で 5 月 21 日 (土)・22 日 (日) の両日、高松市情報通信交流館にて開催しました。

II. セキュリティセンター

1. 改訂版「増加するインターネット接続機器の不適切な情報公開とその対策」を公開
2. 重要なセキュリティ情報 (5 月)

III. ソフトウェア高信頼化センター (SEC)

1. 「Embedded Technology West 2016 (ETWest 2016) / 組込み総合技術展 関西」への出展 (開催案内)
2. 「事例に見る先進的な設計・検証技術の適用分析～高信頼化のための開発技術導入に向けて～」を発行
3. 『「つながる世界の開発指針」実証実験報告書～異常の早期発見・波及防止技術の一例～』を公開
4. 「つながる世界の開発指針～安全安心な IoT の実現に向けて開発者に認識してほしい重要ポイント～」を発刊
5. 「ディペンダビリティの確保」に関する情報を公開
6. 2014 年度および 2015 年度のソフトウェア工学分野の先導的研究支援事業の成果を公開
7. 「サイバー攻撃対策セミナー」にて講演
8. 「ソフトウェア・メンテナンス研究会フォーラム」にて講演
9. 「CCDS セキュリティシンポジウム 2016」にて講演
10. SEC セミナー開催報告 (5 月) および開催案内 (6 月)

IV. IT 人材育成

1. 2015 年度未踏スーパークリエイターを認定
2. 第 22 回未踏 IT 人材発掘・育成事業修了式兼スーパークリエイター認定証授与式を開催
3. 平成 28 年度春期情報処理技術者試験 (情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験) の合格発表について

I. 今月のトピックス

1. 「企業の CISO や CSIRT に関する実態調査 2016」報告書を公開

(担当理事 (本部長補佐) : 頓宮、担当センター長 : 江口)

IPA は、企業経営者の情報セキュリティに対する関与、組織的な対策状況について把握するため、「企業の CISO¹ や CSIRT² に関する実態調査 2016」を実施し、その報告書を 5 月 10 日 (火) に公開しました。

本調査では、文献・アンケート・ヒアリングの 3 段階で調査を実施し、アンケートでは日米欧の従業員 300 人以上の企業を対象に実施しその結果を比較しました。主なトピックは以下のとおりです

- ・ CISO が経営層として任命されていると、情報セキュリティ対策の実施率は高くなる。この傾向に日米欧の差異はない。
- ・ 日本は設置した CSIRT に人材の能力・スキル不足を実感しており、現状に満足していない。
- ・ 日米欧とも 50%以上の企業でサイバー攻撃の発生経験はなく、多くの CSIRT で実力は未知数。また、訓練・演習実施の機能が無いと回答した CSIRT は 6 割以上。

「企業の CISO や CSIRT に関する実態調査 2016」報告書の詳細については、次の URL をご覧ください。

[https:// www.ipa.go.jp/about/press/20160510.html](https://www.ipa.go.jp/about/press/20160510.html)

2. 「IoT 開発におけるセキュリティ設計の手引き」を公開

(担当理事 (本部長補佐) : 頓宮、担当センター長 : 江口)

IPA は、今後の IoT³の普及に備えて、IoT 機器および、その使用環境で想定されるセキュリティ上の脅威に対し、事業者 (開発者) の備えが急務であると考え、「IoT 開発におけるセキュリティ設計の手引き」を作成し、5 月 12 日 (木) に公開しました。

IPA は、現在では IoT と分類されるようになった、組込み機器の情報セキュリティについて、2006 年から脅威と対策に関する調査を実施してきました。現在 IoT と呼ばれる機器には、最初から IoT を想定し開発されたものの他に、単体での動作を前提としていた機器に、ネットワーク接続機能が後付けされたものが多く存在すると考えられます。そのため、IoT の普及と利用者の安全な利用のためには、ネットワークで機器やサービスが繋がることで生じる様々な脅威、それらが原因のリスクや被害を予め踏まえておく必要性があります。

そこで、IPA では IoT の定義について「サービス提供サーバ・クラウド」、「中継機器」、「システム」、「デバイス」、「直接相互通信するデバイス」と 5 つの構成要素に分類し、

¹ Chief Information Security Officer: 最高情報セキュリティ責任者。

² Computer Security Incident Response Team: サイバー攻撃による情報漏えいや障害など、コンピュータセキュリティにかかわるインシデントに対処するための組織。

³ Internet of Things: モノのインターネット

IPA の IoT モデルを設定して、その上で、各々の構成要素における課題の抽出・整理を行いました。

「IoT 開発におけるセキュリティ設計の手引き」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/about/press/20160512.html>

3. 「セキュリティ・ミニキャンプ in 四国 2016」を共催

(担当理事 (本部長) : 川浦、担当センター長 : 片岡)

IPA は、セキュリティ・キャンプ実施協議会と共同で「セキュリティ・ミニキャンプ in 四国 2016」を 5 月 21 日 (土)・22 日 (日) の両日、高松市情報通信交流館にて開催しました。

四国では初めての開催でしたが、香川県やかがわ情報化推進協議会のご協力を得て、一般講座と専門講座の 2 講座を実施しました (一般講座参加者 91 名、専門座参加者 22 名)。

1 日目の一般講座では、香川県警察本部のサイバー犯罪の現状と対策、香川大学病院における患者情報管理、地元企業のデータセンターにおける情報セキュリティの取り組みなどの講演を行いました。2 日目の合宿講座では、Web 通信ツールの基本的な使い方やパケット盗聴装置を実際に作り、通信を守る技法や心構えを学ぶ演習講義を行いました。

特に 2 日目の専門講座には、地元の専門学校、高校の先生方が多く聴講され、教育機関のセキュリティに関する学生指導への関心の高さを感じました。

「セキュリティ・ミニキャンプ in 四国 2016」の詳細については、次の URL をご覧ください。

http://www.ipa.go.jp/jinzai/camp/2016/minicamp2016_shikoku.html

II. セキュリティセンター

1. 改訂版「増加するインターネット接続機器の不適切な情報公開とその対策」を公開～ネットに接続された機器の点検に、新たに登場した検索エンジンの活用も～

(担当理事 (本部長補佐) : 頓宮、担当センター長 : 江口)

IPA は、無償で利用できる検索エンジン “Censys⁴” (センシス) が 2015 年 10 月に新たに登場したことを受け、2014 年に公開したテクニカルウォッチ「増加するインターネット接続機器の不適切な情報公開とその対策」を更新し、その使い方、機能などを追加した改定版を 5 月 31 日 (火) に公開しました。

⁴ インターネットに接続されたサーバー、ルーター、IP 電話等の機器を検索できる検索エンジン。

“Censys”は前述のテクニカルウォッチでも紹介した SHODAN⁵と類似の検索エンジンで、インターネット上に接続された機器を検索します。IPA では IoT など、インターネットに接続される機器の安全確認には“Censys”も有効であることから、その利用方法などを解説したテクニカルウォッチの改訂版を作成しました。

改訂版では、SHODAN、“Censys”両サービスに登録されている日本の機器台数を、機能別、ポート別にまとめています。

改訂版「増加するインターネット接続機器の不適切な情報公開とその対策」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/about/press/20160531.html>

2. 重要なセキュリティ情報（5月）

（担当理事（本部長補佐）：頓宮、担当センター長：江口）

IPA では、インターネットを使っている多くの利用者が影響を受けるセキュリティ対策情報を対象に「重要なセキュリティ情報⁶」として公開しています。

「重要なセキュリティ情報」とは、放っておくと不正アクセスやデータが盗まれるなどの危険性が高いセキュリティ上の問題と対策についてお伝えするもので、IPA 情報発信では 2013 年 12 月より広く啓発するため記載しています。発信情報から、ご自身の PC やシステムへの影響を判断の上、速やかな対策を心がけてください。

5 月は、「緊急」3 件、「注意」2 件を公開しました。

重要なセキュリティ情報の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/announce/alert.html>

Ⅲ. ソフトウェア高信頼化センター（SEC）

1. 「Embedded Technology West 2016（ETWest 2016）／組込み総合技術展 関西」への出展（開催案内）

（担当理事（本部長）：川浦、担当所長：松本）

IPA は、事業成果普及のため、7 月 7 日（木）および 7 月 8 日（金）に開催される「Embedded Technology West 2016（ETWest 2016）／組込み総合技術展 関西」に出展します。

ETWest2016 は、一般社団法人組込みシステム技術協会（JASA）の主催による、日本の組込み業界をリードする企業などが多数参加し、製品・ソリューション展示やカンファレンスによって組込みシステム開発に関わる技術者や開発者に向けた情報発信を

⁵ 2009 年に John Matherly 氏によって開発されたインターネットに接続されている機器の情報を検索する検索エンジン。

⁶ 「重要なセキュリティ情報」は、次の基準で対策の緊急度を表しています。

「緊急」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報でかつ、当該問題を悪用した攻撃が実際に行われているケース。

「注意」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報又は、当該問題を悪用した攻撃が行われる可能性があるケース。

行うイベントです。

今回、IPA では IoT 時代に向けた組込みシステムの高信頼化の取組みを中心とした展示やセミナーを行うとともに、IT に関する最新技術動向についても紹介します。出展ブースでは、「SEC 先端技術入門ゼミ」、「ブースプレゼン」、「展示（パネル・デモ・関連資料配布）」を実施します。また、併設会場にて IPA/SEC の取組みなどを解説する「IPA 特別講演」および「IPA セッション」を同時開催します。

「Embedded Technology West 2016 (ETWest 2016) /組込み総合技術展 関西」出展の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/events/20160707.html>

2. 「事例に見る先進的な設計・検証技術の適用分析～高信頼化のための開発技術導入に向けて～」を発行

(担当理事（本部長）：川浦、担当所長：松本)

IPA は、先進的な技術を導入するためのポイントなどを解説した手引「事例に見る先進的な設計・検証技術の適用分析～高信頼化のための開発技術導入に向けて～」を 5 月 11 日（水）に発行しました。

IPA では、2013 年から自動車、流通、通信、医療など、さまざまな業種・分野における先進的な設計方法や検証技術を活用した成功事例（ベストプラクティス）を収集しています。本書は、これらの事例を整理・分類し、想定される読者の視点で分析した結果や、先進的な技術を導入するためのポイントなどを解説した手引です。

本書および本書で紹介している技術の普及・導入促進を通じて IPA は、あらゆる分野におけるソフトウェアの高信頼化に貢献していきます。

「事例に見る先進的な設計・検証技術の適用分析～高信頼化のための開発技術導入に向けて～」の詳細については、次の URL をご覧ください。

http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20160511_1.html

3. 『「つながる世界の開発指針」実証実験報告書～異常の早期発見・波及防止技術の一例～」を公開

(担当理事（本部長）：川浦、担当所長：松本)

IPA では、2016 年 3 月に公開した「つながる世界の開発指針⁷⁾」で紹介している技術のうち、まだあまり普及していないものの実現性や有効性を実証するために、IPA、ORiN 協議会、一般財団法人機械振興協会の 3 者共同により、ORiN⁸⁾上で実証実験を実施し、その結果を『「つながる世界の開発指針」実証実験報告書～異常の早期発見・波及防止

⁷⁾ <http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20160324.html>

⁸⁾ ORiN (Open Resource interface for the Network) : オンラインと読む。ORiN は、ORiN 協議会により制定された工場情報システムのための標準ミドルウェア仕様として、製造現場の各種装置に対して、メーカーや製品の違いを超えて統一的なアクセス手段を提供するソフトウェア。

技術の一例～』として5月11日（水）に公開しました。

本実験報告書では、障害の波及防止策（製造ライン稼働時の異常検出と対策）と相互接続時の信用確認（製造ラインに装置を組み込む際の対策）の技術の有効性を確認できたことを報告しています。

IPAは本実験報告書の公開によって上記の技術の実用化が進み、製品の安全・安心な開発につながることを期待しています。

『「つながる世界の開発指針」実証実験報告書～異常の早期発見・波及防止技術の一例～』の詳細については、次のURLをご覧ください。

http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20160511_3.html

4. 「つながる世界の開発指針～安全安心なIoTの実現に向けて開発者に認識してほしい重要ポイント～」を発刊

（担当理事（本部長）：川浦、担当所長：松本）

IPAでは、2016年3月に公開した「つながる世界の開発指針」を「つながる世界の開発指針～安全安心なIoTの実現に向けて開発者に認識してほしい重要ポイント～」として5月11日（水）に発刊しました。

IPAは本書の発刊を通して「つながる世界の開発指針」の利用促進を図り、製品の安全・安心な開発の普及につながることを期待しています。

『「つながる世界の開発指針」実証実験報告書～異常の早期発見・波及防止技術の一例～』の詳細については、次のURLをご覧ください。

http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20160511_2.html

5. 「ディペンダビリティの確保」に関する情報を公開

（担当理事（本部長）：川浦、担当所長：松本）

IPAでは、ディペンダビリティ⁹を確保した製品やシステムの実現を目指し、コンシューマデバイス（一般消費者が使用する機器）の開発方法論の国際規格化や、国内のディペンダビリティに関する活動を行っている団体等と連携して最新技術の普及促進を行うなど、利用者が安心してIoT時代を暮らせるよう、さまざまな活動に取り組んでいます。この度、これらの「ディペンダビリティの確保」のための活動について紹介するWebページを5月27日（金）に公開しました。

本ページでは、IPAと連携先の団体の活動を紹介する資料や関連するリンク情報をまとめています。

IPAは本取組みを通じて、業界を越えた協力体制を構築し、安全・安心なIoT時代の実現に貢献していきます。

⁹ 安全性、信頼性、セキュリティなど、利用者が安心して製品やシステムを利用し続けるために必要な要素の総称。

「ディペンダビリティの確保」に関する情報の詳細については、次の URL をご覧ください。

http://www.ipa.go.jp/sec/our_activities/dependability.html

6. 2014 年度および 2015 年度のソフトウェア工学分野の先導的研究支援事業の成果を公開

(担当理事 (本部長) : 川浦、担当所長 : 松本)

IPA は、5 月 31 日 (火) に 2014 年度および 2015 年度のソフトウェア工学分野の先導的研究支援事業 (RISE) の研究成果を公開しました。

本事業は、大学等の学術分野におけるソフトウェアに関する研究成果を産業界に普及・展開することを目的に、ソフトウェア工学分野の先導的研究やソフトウェアの経済的効果に関する研究を公募し、支援する取り組みです。

IPA では 2012 年度より本事業を開始し、2014 年度は 4 つ、2015 年度は 6 つの研究テーマを採択しこれを支援してきました。このたび、これら 2014 年度採択の研究 2 件 (2 年度間研究) および 2015 年度採択の研究 4 件 (単年度間研究) において本年 3 月に成果がまとまりましたので以下の通り公開しました。

組織名	研究期間	研究テーマ名
学校法人慶應義塾 慶應義塾大学	2	システムモデルと繰り返し型モデル検査による次世代自動運転車を取り巻く System of Systems のアーキテクチャ設計
学校法人神奈川大学 神奈川大学	2	オープンシステム・ディペンダビリティのための形式アシュランスケース・フレームワーク
国立大学法人名古屋大学	1	保証ケース作成支援方式の研究
国立大学法人福井大学	1	携帯端末用アプリケーションソフトウェアが地方経済に与える効果の実証実験評価に関する研究
学校法人工学院大学 工学院大学	1	要求定義の高品質化のための要求仕様の整合性の検証知識の形式知化と一貫性検証支援ツールの開発
国立大学法人広島大学	1	データマイニング手法を応用した定性的信頼性 / 安全性解析支援ツールの開発

「2014 年度および 2015 年度のソフトウェア工学分野の先導的研究支援事業」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20160531.html>

7. 「サイバー攻撃対策セミナー」にて講演

(担当理事(本部長)：川浦、担当所長：松本)

IPAは、5月13日(金)に北海道警察琴似庁舎(北海道札幌市)で行われた「サイバー攻撃対策セミナー」にて講演しました。

本セミナーは、北海道サイバーテロ対策協議会の主催による、重要インフラを担う組織の経営者、組込み技術者等に対してサイバー攻撃情勢に関する危機意識の醸成を図るためのものです。「IPAが推進するシステム障害対策をサイバー攻撃後のシステム復旧、同様の手口や原因による情報漏えい等の未然防止策といったセキュリティ対策に活用する」というセミナーの趣旨の下、IPAは「システム障害事例情報共有の取組みと事例分析により得られた教訓」というテーマで講演を行いました。

当日は55名の方に参加いただき、盛況のうちに終了しました。

IPAでは、今後も講演活動を継続していきます。

8. 「ソフトウェア・メンテナンス研究会フォーラム」にて講演

(担当理事(本部長)：川浦、担当所長：松本)

IPAは、5月19日(木)に江東区大島 総合区民会館(東京都江東区)で行われた「ソフトウェア・メンテナンス研究会フォーラム」にて講演しました。

本フォーラムは、ソフトウェア・メンテナンス研究会(SERC)の主催による、ソフトウェア・メンテナンスの技術向上を図るためのもので、IPAは「情報システムの障害状況ウォッチ近年2年間の解説」というテーマで基調講演を行いました。

当日は24名の方に参加いただき、盛況のうちに終了しました。

IPAでは、今後も講演活動を継続していきます。

「ソフトウェア・メンテナンス研究会フォーラム」の詳細については、次のURLをご覧ください。

http://serc-j.jp/archive/serc_3.html

9. 「CCDS セキュリティシンポジウム2016」にて講演

(担当理事(本部長)：川浦、担当所長：松本)

IPAは、6月1日(水)に目黒雅叙園(東京都目黒区)で行われた「CCDS セキュリティシンポジウム2016」にて講演しました。

本シンポジウムは、一般社団法人 重要生活機器連携セキュリティ協議会(CCDS)の主催による、IoT機器・サービス開発企業の経営者や技術者等を対象としてIoT時代におけるセキュリティ対応意識の向上を図るためのもので、IPAは「IoT時代のリスクの認識と安全安心の確保に向けた取組み～「つながる世界の開発指針」の策定の背景と解説～」というテーマで講演を行いました。

当日は105名の方に参加いただき、盛況のうちに終了しました。

IPA では、今後も講演活動を継続していきます。

「CCDS セキュリティシンポジウム 2016」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ccds.or.jp/event/2016/20160601/20160601.html>

10. SEC セミナー開催報告（5月）および開催案内（6月）

（担当理事（本部長）：川浦、担当所長：松本）

IPA は、事業成果を広く普及・啓発することを目的としたセミナー、ソフトウェア・エンジニアリングに関する国内外の最新動向などを紹介する特別セミナーをそれぞれ実施しています。

5月 は、次の日程で実施しました。

- ・ 第1回 定量的マネジメントセミナー（5月27日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160527.html>

6月 は、次の日程で開催を予定しています。

- ・ つながる世界の組込みソフトウェア高信頼化活動の紹介
～2015年度 製品・制御システム高信頼化部会成果報告～（6月27日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20160627.html>

IV. IT 人材育成

1. 2015年度未踏スーパークリエータを認定

（担当理事（本部長）：川浦、担当センター長：片岡）

IPA と経済産業省は、「2015年度未踏 IT 人材発掘・育成事業」における「スーパークリエータ」として10名の認定を行い、6月2日（木）に日経カンファレンスルーム（東京都千代田区）にてスーパークリエータたちとその成果を発表する記者会見を実施しました。

「スーパークリエータ」とは、未踏事業において特に卓越した能力を有すると認められた人材で、本年は23名のクリエータの中から10名を認定しました。

記者会見では多数のメディア関係者が集まり、未踏事業への高い関心がうかがえました。

また記者会見の後には、スーパークリエータと未踏事業に興味を持っていただいた方々とは交流出来る場として「スーパークリエータ交流会」を開催しました。同交流会では10名のスーパークリエータがプロジェクト毎にブースを出展し、参加者とスーパークリエータとが自由に交流・談話し、成果をより深く理解いただけました。

今回認定されたスーパークリエイターと、実施プロジェクトは以下のとおりです。

認定者名	所属	実施プロジェクト
青木 海 尾崎 嘉彦	筑波大学 大学院 筑波大学 大学院	マルチメディア用ビジュアルプログラミング言語から HDL への高位合成ツールの開発 (プログラマブルな楽器「sigboost (シグブースト)」で高負荷な音声合成を低遅延で実行)
安野 貴博	フリーランス	ユーザの行動を予測し生産性を高めるインタフェースの開発 (アプリケーションの次の操作を予測する「LIGHTNING UI (ライトニング ユーアイ)」を実装したマウスインタフェース)
石丸 翔也	ドイツ人工知能 研究センター	心の状態を可視化するシステムの開発 (心の状態を可視化する「心温計」による心のモニタリング)
大津 久平	東京大学 大学院	大域照明計算手法開発のためのレンダリングフレームワーク (拡張性と検証性を兼ね備えた研究開発のためのレンダリングソフトウェア「Lightmetrica (ライトメトリカ)」)
竹内 理人 山中 治	東京工業大学 大学院 広島大学 大学院	集団運動・動物行動の解析ソフトウェアの開発 (動画から動物の行動データを迅速に抽出するプラットフォーム「UMATracker (ユーマトラッカー)」)
土屋祐一郎	東京大学 大学院	深層学習による高性能インテリジェントカメラの開発 (深層学習で画像を認識する小型でインテリジェントなカメラモジュール「Nano Deep (ナノディープ)」)
寺本 大輝	ハックフォー プレイ株式会社	ゲームをハックすることでプログラミングを学習する教材の開発 (プログラミングが好きになるゲーム改造プラットフォーム「HackforPlay (ハックフォープレイ)」)
内藤 剛生	Tallinn University of Technology	デザインの継続的インテグレーション支援ソフトウェア (効率の良い Web デザイン検証サービス「Eyecatch (アイキャッチ)」)

2015 年度未踏 IT 人材発掘・育成事業「スーパークリエイター」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/about/press/20160602.html>

2. 第 22 回未踏 IT 人材発掘・育成事業修了式兼スーパークリエイター認定証授与式を開催

(担当理事(本部長):川浦、担当センター長:片岡)

IPA と経済産業省は、「第 22 回未踏 IT 人材発掘・育成事業 修了式兼スーパークリエイター認定証授与式」を、6 月 2 日(木)に日経カンファレンスルーム(東京都千代田区)で開催しました。

修了式では、東京大学教授で元未踏 PM(プロジェクトマネージャー)の坂村健氏が講演を行い、修了した未踏クリエイターたちに熱いエールが贈られました。また、各クリエイターを指導した PM からは担当したクリエイターと実施プロジェクトの紹介があり、23 名の未踏クリエイターたちに修了証が手渡されました。引き続き行われたスーパークリエイター認定証授与式では、10 名のスーパークリエイターに認定証が授与されました。

IPA では、本事業を修了した未踏クリエイターたちの活躍が、IT による社会の変革を起こすことを期待しています。

本式典の詳細については、次の URL をご覧ください。

http://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/2016/juyoshiki_22th.html

3. 平成 28 年度春期情報処理技術者試験(情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験)の合格発表について

(担当理事(本部長):川浦、担当センター長:高橋)

IPA は、平成 28 年度春期情報処理技術者試験(所管:経済産業省、4 月 17 日(日)実施)のうち、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験の合格者を 5 月 16 日(月)に発表しました。

応募者数、受験者数、合格者数等は以下のとおりです。

試験区分	応募者数 ※1	受験者数	合格者数	合格率(%) ※2
情報セキュリティマネジメント試験	21,691	17,959	15,800	88.0
基本情報技術者試験	61,281	44,184	13,418	30.4

※1 平成 28 年熊本地震の影響により、九州地方(沖縄県を除く)試験地での実施中止等で受験できなかった方を除く。

※2 合格率=合格者数/受験者数

各試験区分合格者に関する主な情報は以下のとおりです。なお、今回新設した情報セキュリティマネジメント試験は、社会人の受験者が9割以上を占めており、平均年齢は39.8歳と、基本情報技術者試験の25.8歳に比べ、大幅に高くなっています。このように、社会人としての経験が豊富な層の受験者が多かったことから、合格率が高い水準になったと考えられます。

※無記入を除く

【社会人/学生別合格者数、合格率】

	社会人/学生別						平均年齢	
	社会人			学生			受験者	合格者
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率		
情報セキュリティ マネジメント試験	13,826	12,481	90.3%	936	534	57.1%	39.8	40.1
基本情報 技術者試験	17,255	5,075	29.4%	15,594	4,983	32.0%	25.8	25.3

【社会人勤務先別合格者数、合格率】

	社会人勤務先別					
	IT系企業			非IT系企業		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
情報セキュリティ マネジメント試験	7,691	6,879	89.4%	6,135	5,602	91.3%
基本情報 技術者試験	13,245	3,726	28.1%	4,010	1,349	33.6%

各試験の統計に関する詳しい情報については、次のURLをご覧ください。

http://www.jitec.ipa.go.jp/1_07toukei/_index_toukei.html

問合せ先 独立行政法人 情報処理推進機構
 戦略企画部 企画・調査G 笹木・中山
 〒113-6591
 東京都文京区本駒込二丁目28番8号
 文京グリーンコートセンターオフィス
 TEL：03-5978-7503
 E-mail：spd-plan@ipa.go.jp